

外観形質が良好で収量性の高い ヤーコンの新品種「アンデスの乙女」

ヤーコンは、近年、機能性に富んだ新しい根菜類として注目され普及が期待されていますが、海外から導入された系統が中心に栽培されてきたため、わが国の風土に適した品種の育成が求められていました。(独)農研機構近畿中国四国農業研究センターでは、これまでに、「サラダオトメ」をはじめ、貯蔵性、肉色、食味等に優れた「アンデスの雪」、「サラダオカメ」を育成、普及に移してきました。このたび、収量性が高く、色彩等の外観形質も優れる新品種を育成しましたので、その概要について紹介いたします。

☆ 品種の概要

1. 「アンデスの乙女」は、国際バレイショセンターから導入した「SY107」にヤーコン農林 1号である「サラダオトメ」を交配してえられた選抜系統「97C5-56」を雌親とし、栽培面積の大きい導入在来系統の「SY11」を花粉親として交配後、個体選抜によって育成した品種です。
2. 「サラダオトメ」と比較して、草勢はやや強く、茎長が長く、茎数も多く、地上部重が極めて大きいです。葉色は濃緑色で、茎葉のアントシアニンによる着色も強いのが特徴です。また、株当たりの塊根数が多く、個々の塊根も大きいため収量性は極めて高いです。また、裂根が生じにくく、秀品率も高いです。
3. 肉色は淡橙黄色で糖度、食味は「サラダオトメ」と同程度です。
4. 塊根は滑らかな紡錘形で揃いも良く、外観品質が良好です。また、皮色はこれまでの品種に無いサツマイモに近い濃い赤紫色です。

表 「アンデスの乙女」の主要特性(愛媛県久万高原町で 2006 から 2009 年栽培した平均)

品種・系統名	塊根数 (個/株)	塊根重 (kg/株)	収量 (kg/a)	平均単根 重(g)	裂根率 (%)	形状	皮色	肉色	Brix (%)	食味 (1-5)
アンデスの乙女	14.5	2.98	542	206	5.9	紡錘	濃赤紫	淡橙黄	8.07	2.62
サラダオトメ	6.4	0.97	176	140	30.3	紡錘	灰茶	黄白	8.14	2.60
SY11	5.4	0.84	152	167	64.7	紡錘	灰茶	淡黄	8.49	3.00

☆ 活用面での留意点

1. 従来のヤーコン品種と同様に、夏季冷涼な北海道、東北地方および温暖地の高標高地での栽培に適します。作型としては春植え秋冬どり栽培に適します。
2. 栽植密度は、畝幅 110cm、株間 50cm、施肥量は三要素とも 1.5kg/a 程度が適切です。
3. 地上部の生育が旺盛で収穫期に倒伏する場合がありますが、塊根収量への影響はありません。また、既存品種と同様に病害虫の発生は殆どなく適地では特段の防除は必要としません。
4. サラダ等の青果用、ジュース、漬物等の加工用としての塊根利用のほか、葉をヤーコン茶として利用するなどの用途拡大も期待できます。
5. 詳細については、近畿中国四国農業研究センター傾斜地園芸研究領域 傾斜地野菜生産研究グループ(0877-63-8125)へお問い合わせ下さい。

(日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 袴田勝弘)